

平成29年度事業報告

はじめに

公益財団法人認定6年目を迎えた当該年度は、財団設立趣旨に準拠した堅実な運営を実践し、物流博物館事業を推進してまいりました。

事業面では物流産業のあらましを紹介した映像作品を20年ぶりに更新・製作し、来館者の興味を惹く特別展や講座を開催することで、集客増に努めました。今後も展示内容の充実や効率的な運営を目指し、各種学校団体見学や新入社員研修などの誘致に一層努力し、幅広い来館者層に利用していただくための取り組みをおこなってまいります。

1. 平成29年度の事業経過の概況について

A. 重点推進項目の実施状況

平成29年度事業計画にもとづき、次の6項目を重点推進項目として取り組んでまいりました。

- (1) 特別展「飛脚問屋・嶋屋佐右衛門日記の世界」の開催と常設展示の改良・催事の実施
- (2) 一般入館者および団体見学増に向けた広報活動の強化
- (3) 収蔵資料の整理・データ化の推進
- (4) 常設展示リニューアルの計画立案、一部実施
- (5) 建築・設備の老朽化に伴う補修・機器交換に関する中期計画の立案、スケジュール化
- (6) 運営資金の確保

(1) 特別展の開催実施と常設展示の改良に向けた準備

特別展「飛脚問屋・嶋屋佐右衛門日記の世界」を開催しました。常設展示については、現代物流に関するデータを更新するなど定期的な展示替えをおこないました。

展示以外には、収蔵している映像作品のデジタル化を記念して映画上映会を開催しました。そのほか恒例の催事である「なつやすみダンボール工作コーナー」、「美術品梱包講座」、「ペーパークラフト教室（日本内航海運組合総連合会との共催）」、「古文書講座初級編」、「古文書講座（中級者向け）」、「クリスマス・サンタクロース映画会」などを昨年引き続き実施しました。

(2) 一般入館者および団体見学増に向けた広報活動の強化

特別展の開催や恒例のイベントを行うとともに、博物館連携団体や各地博物館・美術館、企業他関係先などに幅広く情報発信を行い、全国紙都内版、業界紙誌、タウン紙、旅行関係書籍、WEBサイト等各方面で紹介され、土日祝日の一般来館者が増えました。また、期間限定ではありますが、鉄道会社及び旅行会社主催の街歩きイベントの行程に当館が加えられ、来館者数の増加につながりました。

(3) 収蔵資料の整理・データ化の推進

昨年度に引き続き、収集後、未整理となっている収蔵資料について資料整理に取り組んでおり、本年度も年末に資料整理休館期間を設け、資料の点検・整理、収蔵環境の向上のための収納設備の整備をおこないました。また、収蔵資料目録のデータ化についても、これまで同様に進めてまいりました。収蔵している映像資料については、日本通運(株)広報部に協力し、今年度は105本(8mmで撮影された短時間の記録映像を含む)のデジタル化を進めました。

(4) 常設展示リニューアルの計画立案、一部実施

現代物流のあらましを紹介した映像作品「物流ってなあに」を20年ぶりに更新し、新たに「暮らしと産業を支える物流」を制作しました。

(5) 建築・設備の老朽化に伴う補修・機器交換に関する中期計画の立案、スケジュール化

開館以来、補修・交換を行っていない物流博物館建物本体・配管等の補修、および空調機器などの設備機器の交換等について、具体的な検討を行いました。

(6) 運営資金の確保

事業実施に際しては効率的な運営を心掛け費用節約に努めるとともに、特定資産の安全かつ効率的な運用に努めてまいりました。

B. 物流博物館の具体的な事業実施状況について

(1) 利用者数

a. 入館者数

平成29年度は、開館日数は273日となりました(対前年度6日減、2.2%減)。入館者数合計は10,231人で、前年度実績(8,974人)を14.0%上回り、予算(7,770人)を31.7%上回りました。29年度末時点の開館以来の累計入館者は157,503人となりました。

b. 団体見学者数

団体見学者数は、幼児2団体47名、小学校7校438名、中学校50校534名、高等学校10校183名、大学8校91名、専門学校5校58名、一般団体55団体883名、企業団体81団体858名、地域団体6団体44名で、団体数合計は224団体、団体見学者数は3,136名でした。

(2) 平成29年度に実施した企画事業等

a. 普及事業

① なつやすみ段ボール工作コーナー

実施日：8月12日・19日(土)(全2回)

参加者：こども92名+保護者94名=合計186名

概要：梱包資材である段ボールで自分だけの機関車・トラック・貨物船を制作。

②学生向け体験講座「美術品の梱包・入門(陶器)編」

実施日：8月10日(木)(午前・午後全2回)

参加者：24名

概要：梱包の専門家を講師に招き美術品梱包の初歩を体験するもの。

日本通運(株)美術品事業部協力。博物館学芸員資格を取得中の大学生や、博物館関係者などが参加。陶器の梱包体験のほか美術品専用車を見学。

③古文書講座「古文書を楽しむ～古文書講座初級編～」

実施日：5月27日、6月10・24日、7月1日の土曜日(全4回)

参加者：のべ107名

概要：典型的なくずし字の読み方や、江戸時代の古文書のパターンに触れて、楽しみながら古文書に親しむ講座。

講師：学習院大学非常勤講師 田中潤先生

④古文書講座「飛脚問屋の内部事情と社会相―「飛脚問屋・嶋屋佐右衛門日記」をよむ―

実施日：10月28日、11月18・25日、12月9日の土曜日(全4回)

参加者：のべ124名

概要：物流に関する歴史について、古文書の解読を行いながら解説する講座。今回は当館の特別展に関連し、江戸の飛脚問屋・嶋屋の日記(郵政博物館蔵)をテキストとしてとりあげ、飛脚問屋での不祥事を記載した部分を解読。記事から見えてくる江戸の社会と文化についても解説。

講師：成城大学・早稲田大学非常勤講師 滝口 正哉 先生

⑤映画上映会

実施日・テーマ：5月28日(日)：「1964」

6月25日(日)：「大移転作業―引越し大作戦」

7月9日(日)：「『美』を運ぶ人びと」

8月27日(日)：「トラックドライバー魂」

9月10日(日)：「超重量品輸送の世界」

12月17日(日)：「海と陸と」

1月28日(日)：「戦後の輸送革新」

2月25日(日)：「超重量品輸送の世界・2」

3月25日(日)：「高度経済成長と生活革命」

参加者数：のべ419名

概要：当館では昭和20年代～50年代の物流に関する映画フィルムを収蔵しており、昨年度までに約100本に及ぶ記録映像のデジタル化を完了した。今年度はデジタル化を記念し、テーマを設定して作品を選び上映会を毎月1回開催。

⑥クリスマス・サンタクロース映画会

実施日：12月16日(土)(午前・午後全2回)

参加者：こども21名+保護者28名=合計48名

概要：プレゼントを「運ぶ」サンタクロースをテーマにした映画を2

本上映し、サンタがこどもたちにプレゼントを贈呈。

⑦博物館学芸員実務実習の受入

実施日：8月1日(火)～4日(金)/8日(火)～13日(日) (10日間)

受入人数：5名 (青山学院大学2名・鶴見大学1名・専修大学1名・
日本女子大学1名)

概要：大学で博物館学芸員資格取得を目指す学生の実務実習の受入れ。
展示実習では1階物流の歴史展示室での鉄道コンテナの展示を
改良。

⑧高輪伝馬の会

概要：高輪伝馬の会は、古文書講座(平成13～28年度実施)の参加者の
うち、講座終了後も継続して古文書読解を行うことを希望したメ
ンバーにより、平成15年11月に発足した自主的な勉強会。平成
27年度も引き続き毎月第1・3土曜日に当館を会場として開催
(8月を除く)。

参加人数：延べ98名

開催回数：全21回

b. 特別展

①特別展「飛脚問屋・嶋屋佐右衛門日記の世界」

会期：10月21日(土)～12月10日(土) (51日間)

会期中入館者数：2,016名

概要：18世紀の江戸の飛脚問屋「嶋屋佐右衛門」の日記(郵政博物館
蔵)をとりあげ、当時の飛脚の送達システムなど仕事の様子、大
名家や商家など取引先との付き合いや他の飛脚問屋との関係、
商家としての日々の出来事や行事、事件など、飛脚問屋の実像
を紹介。あわせて関連資料を展示。

c. 外部協力

①共催事業

講座「内航船ペーパークラフトを作ろう！」

共催団体：日本内航海運組合総連合会

実施日：8月25日(土) (午前・午後全2回)

参加者：こども21名+保護者36名=合計57名

会場：物流博物館

概要：くらしと産業に欠かせない貨物を運ぶ内航船についての解説を
聞き、貨物船のペーパークラフトを制作する夏休みのこども向
け企画。

講師：オトウカトウ氏(工作ユニット)

②外部イベント協力

1) 日通ビジネススクールへ協力

実施日：8月5日(土)

参加者：日本通運(株)従業員とその家族

主催：日通グループユニバーシティ

会場：物流博物館

概要：「タイムマシンで日通のむかしを見に行こう！！～物流博物館で学ぶ歴史講座・その4～」と題し、日通ビジネススクールの夏休み家族むけイベントで協力。

2) 物流業界紹介セミナーへ協力

実施日：11月10日(金)・11(土)・12(日)

参加者：就職活動中の大学生・大学院生

主催：(公社)全国通運連盟

会場：物流博物館

概要：(公社)全国通運連盟主催の学生向けセミナー「日本経済を支える物流業界を知ろう！」にて「変革するロジスティクス～江戸時代から現代へ～」と題し当館主任学芸員(玉井)が講演。

3) ちいさいとこネットへ協力

実施日：11月20日(月)

参加者：博物館関係者

主催：ちいさいとこネット(小規模博物館のネットワーク)

会場：物流博物館

概要：ちいさいとこネットの例会において当館での見学会開催。

③ 博物館関係諸団体との連携と共同の取り組み

1) 「産業文化博物館コンソーシアム」(通称：COMIC)

概要：平成20年春、企業ミュージアムの運営者が集い同コンソーシアムが発足して以来、定例開催のシンポジウム・事例研究会や年1回開催の全体会に参加。連携緊密化と情報交換に尽力。

2) 「みなとの博物館ネットワークフォーラム」

概要：港に関する文物を研究・所蔵・展示する博物館及び港湾関係者で構成され、相互情報交換や連携事業を実施。よりよい活動への意見提出など連携緊密化と情報交換に尽力。

3) 「港区ミュージアムネットワーク」への協力

概要：東京都港区の主導により、同区内に所在する博物館・美術館等の相互情報交換や連携事業を実施。平成20年春に同ネットワークが発足以来、物流博物館として各種事業に極力参加し、博物館の広報と連携に尽力。また、港区内の美術館や博物館などの文化施設と区が連携して、文化芸術イベントを開催する事業「ミナコレ」に例年どおり参加。

4) 「全国街道資料ネットワーク」への参加

概要：同ネットワークは、特定非営利活動法人全国街道交流会議と通信総合博物館(現・郵政博物館)が中心となって平成25年12月に発足。全国の街道関係の資料を保存する機関等から構成される組織体を志向。当館も要請を受け発起人

として参加。平成 29 年度は郵政博物館の誕生 115 年記念「悠久の大逡信展」の関連イベントとして、同ネットワークの協力のもと記念講演会が行われ、当館主任学芸員(玉井)が講演。

④各種イベント等への出展・連携など

1) プロロジス CSR 活動

実施日：4月21日(金)、10月27日(金)

概要：同社 CSR 活動の一環として平成 20 年度より、東京・大阪両オフィスで同社社員によるボランティア活動として、段ボール工作キットや当館のしおりの制作作業を毎回 1 時間程度依頼。

参加：毎回、約 100 人（同社社長始め社員の皆様）

2) 第 11 回優良ロジスティクス企業業界研究会 2018 への出展

実施日：2月20日(火)

参加者：就職活動中の学生

主催：ロジスティクス人財フォーラム（イー・ビジネス・ドットコム（有））

会場：秋葉原 UDX 2F(アキバスクエア)

概要：学生に対するキャリア教育の一環として実施され、物流関連企業や業界に対する理解促進を目的とした合同説明会。物流関連企業のみが参加することが特徴で、物流業界に興味を持つ学生に対し当館を広く PR。当館の出展は今回 3 回目。

3) 日本通運グループ合同企業説明会への出展

実施日：3月18日(日)

参加者：就職活動中の学生

主催：日本通運株式会社

会場：日本通運株式会社 本社

概要：日本通運グループの合同説明会。物流業界に興味を持つ学生に対し当館を広く PR。当館の出展は今回 2 回目。

⑤学芸員による出講・講演・執筆

1) 郵政博物館企画展「悠久の大逡信展」記念講演会へ出講

主催：郵政博物館

実施日：5月20日(土)

会場：郵政博物館

概要：企画展記念講演会第 2 回にて「飛脚問屋・嶋屋佐右衛門日記について」と題して講演。

担当：玉井幹司

2) 市立市川歴史博物館「浮世絵の世界と市川」講演会へ出講

主催：市立市川歴史博物館

実施日：8月6日(日)

会場：市川市立市川歴史博物館

概要：「江戸川・利根川舟運事情—和船の時代から蒸気船の登場ま

でー」と題して講演。

担当：玉井幹司

3) 浩志会へ出講

主催・会場：一般財団法人 浩志会（官民の勉強会）

実施日：9月5日(火)

概要：「飛脚問屋・嶋屋佐右衛門日記について」と題し講演。

担当：玉井幹司

4) 全国通運連盟寄附講座へ出講

主催：全国通運連盟

実施日：9月27日(水)・10月4日(水)〔第1回、第2回〕

会場：流通経済大学

概要：全国通運連盟寄附講座(全14回)のうちの2回を担当。「物流と通運の歴史」と題して江戸時代の交通・運輸制度から明治以降の鉄道貨物取扱業の歴史、近年の概況までを講演。

担当：玉井幹司

5) たばこと塩の博物館「和モダンの世界 近代の輸出工芸」関連イベントへ出講

主催・会場：たばこと塩の博物館

実施日：11月5日(日)

概要：「ふろしきでバッグを作ろう」と題し、暮らしの中で便利に使えるふろしきバッグを紹介。

担当：三田芳美

6) 関東通運株式会社創立75周年記念講演会へ出講

主催・会場：関東通運株式会社

実施日：11月18日(土)

概要：関東通運株式会社75周年記念式典の中で「近代の物流を支えたマル通のあゆみ」をテーマに講演。

担当：玉井幹司

7) 鎌倉市教養センターへ出講

主催：鎌倉市社会福祉協議会

実施日：3月5日(月)

会場：鎌倉市教養センター

概要：一般教養講座の中で「物流と運ぶ姿の移り変わり～江戸時代の飛脚から現代の宅配便まで」をテーマに講演。

担当：玉井幹司

8) 品川郷土の会へ出講

主催：品川郷土の会

実施日：3月24日(土)

会場：品川中小企業センター

概要：例会で「嶋屋日記からわかること」をテーマに講演。

担当：玉井幹司

d. マスコミ掲載（主なもの）

①「朝日新聞」5月17日朝刊

「わがまちお宝館 物流博物館 暮らしの支え 発展史学ぶ」

②「日本経済新聞」11月29日朝刊「春秋」欄

特別展「飛脚問屋・嶋屋佐右衛門日記の世界」の紹介。

C. 寄附金の收受実績について

(1) 物流博物館等維持会正会員各社・準会員各社による寄附

大変厳しい経済環境下、日本通運(株)殿を始めとする維持会正会員8社の絶大なご理解により合計28,000千円のご寄附を賜りました。

準会員については、一般公募（日通関係各社以外）16社から合計16口480千円、日通関係38社から合計64口1,910千円、合計54社、80口2,390千円のご寄附を賜りました。

以上、正会員8社・準会員54社、合計62社による寄付合計額は30,390千円(対予算390千円増、対前年度実績670千円増)となりました。

(2) 物流博物館等維持会正会員各社・準会員各社新規入会の状況

平成29年度においては、正会員として(株)ワンビシアーカイブズに、準会員として日通函館運輸(株)・知多通運(株)の合計3社に新規にご入会いただきました。

D. 平成29年度収支の状況

(1) 収支状況

経常収益計は39,089千円で、予算(37,345千円)に対して1,744千円増(4.7%増)、前年度実績(36,135千円)に対して2,954千円増(8.2%増)となりました。対予算は、博物館事業収入(入館料・その他博物館事業収益)の増が主な内容です。対前年実績は、特定資産受取利息の増によるものです。

経常費用計は57,804千円で、予算(60,007千円)に対して2,203千円減(3.7%減)、前年度実績(58,518千円)に対して714千円減(1.2%減)となりました。減価償却費以外の要因として、対予算・対前年共に修繕費が抑えられたことによるものです。

(2) 運用手元資金

平成30年3月31日の手元資金は、766百万円で、内訳は次のとおりです。

(百万未満は切り捨て)

	平成30年3月末	平成29年3月末	平成28年3月
国債	488百万円	488百万円	287百万円
地方債	100百万円	100百万円	150百万円
政府保証債	100百万円	100百万円	0円
証券会社へ預け金	0円	0円	100百万円
定期預金	40百万円	25百万円	175百万円

普通預金	37百万円	45百万円	44百万円
合計	766百万円	758百万円	757百万円

(3) 正味財産

平成30年3月31日現在の正味財産は以下のとおりです。

平成30年3月末 平成29年3月末 平成28年3月末
 2,337,991,537円 2,356,706,132円 2,379,088,365円

※正味財産減の主な要因は平成18年度からの固定資産減価償却
 (当期償却額 23,174,959円)によるものです。

E. その他

(1) 石井国土交通大臣による視察を受け入れました。

a. 日時 2018年3月3日(土) 午前

b. 来訪者

石井啓一国土交通大臣、重田雅史物流審議官、英浩道総合政策局物流政策課長、郡英男総合政策局物流政策課長補佐、斉藤やすひろ東京都議会議員、杉本とよひろ港区議会議員、池田たけし港区議会議員、千保木みきこ港区議会議員

c. 視察目的

国土交通省による総合物流施策大綱(2017年度~2020年度)の施策推進にあたり、物流に対する国民の理解を深めるための啓発活動を展開する際に、物流の役割を紹介している当館に注目され、この度の視察となりました。運輸省及び国土交通省の大臣が来館されたのは、1998年に開館して以来はじめてのことです。

以上